かどや通信

第44号

発　行　日：令和３年５月吉日
発　　行：かどや保存会
発行責任者：寺田　直喜／編集：廣野　克子

「金継ぎの世界」を学ぶ
延期の人気講演開催！

かどや塾「金継ぎの世界」が、五月九日と十日に開催され、両日で二十九名が参加した。講師の林遼子さんは、ジュエリー・デザイナーで、金継ぎの指導も行っており、日々実践している金継ぎの作業工程等を詳しく説明した。

講演ではまず、「金継ぎとは、割れたり欠けたりした陶磁器を漆で修理すること」と、金継ぎの定義を述べた。また、歴史的背景について「日本では漆を接着剤として修理に使うことは縄文時代から行われていたが、室町時代からは茶道の発展と共に広まった」と、芸術性を重んじる茶道との関係にも触れた。

続いて、金継ぎの標準的な作業について、林さんが日頃使用している道具等も使いながら、細かく根気のいる作業を、分かりやすく解説した。

また、「日本以外の国では壊れたものは欠陥品とみなされるため修理技術は発展しなかった。しかし、日本では不完全なものでも手を加えることによって新たな創作表現として評価する日本人独特の芸術観により進化発展した」と、修理に留まらない芸術性についても熱く語った。参加者も林さんの情熱に引き込まれるように聞き入り、質問も積極的に出て、一日間とも会場は熱気にあふれていた。

なお、同講座は当初、二月二十一日に開催予定だったが、直前に鳥羽市内で新型コロナウイルスのクラスターが発生。しかも申込数が二十一名と、かどやとしては多数だったため、密を避ける観点から急遽延期することになったのだ。

今回は、三密回避のため、定員を減らし、二回に分けて実施することになったが、回数が増えたことで前回を上回る申込みをいただいた。

会場では空気清浄機をフル稼働させ、網戸で外気もしっかり取り入れる等、換気にも配慮して行われた。

縁の下の仲間たち⑪

セミナーの舞台裏～その2

かどやスタッフは残念ながらパソコン等コンピューターを使った情報技術に弱い。

前回のかどや塾では講師が持参したパソコンとプロジェクターをつなぐ端子の形状が合わず青ざめた。その時は、映像作家でおにぎりカフェのオーナーであるはじめちゃんと、かどやに見学に来た通りすがりの若者の協力で事なきを得た。これに懲りた慎重派のユウジさんは、事前にチェックするよう警告していた。しかし、今回はこれまで何度も使ってきたかどやのパソコンを使うので「問題なし」と高を括っていた。

ところがである。当日パソコンの画面がスクリーンに映らないのだ。開始までには一時間以上あったので、動揺を隠しながら徒歩二分のおにぎりカフェに走った。店には一組しかお客様がいなかったので、はじめちゃんは「すぐ行きます」と言ってくれたが、途端にお客様が入店されて冷や汗たらり。多少時間はかかったが、はじめちゃんが駆けつけると問題はすんなり解決。これに懲りて、翌日は早めに画像を確認し「今日は大丈夫」と胸をなでおろした。なのに、講師が到着して操作を始めると、画面が変なのだ(詳細説明は難しいので割愛)。またしてもはじめちゃんにすがり、無事始まった。

窮地を救ってもらった感謝を込めて、おにぎりカフェのPRは、しっかりさせていただいた。コーヒーも美味しいので、皆さんも是非！

昔の道具に興味津々！
安楽島小学校生がかどや見学

安楽島小学校の四年生三十五人が四月二十七日、春の遠足の一環としてかどやにやって来た。

当日は遠足日和の晴天のもと、学校から約四十分歩いて九時にかどやに到着。密を避けるため、四つのグループに分かれて、館内を巡った。

台所では「昔の道具」について、玄関では薬屋だった頃の「薬と広野家」の話、二階では「昔の鳥羽とかどや」に関する生徒参加型のクイズが出され、楽し気な質疑応答が行われた。かつて多くの人たちをもてなしてきた座敷(応接間)では、明治三十年代に製造された長尾オルガンでミニコンサートが行われ、ピアノとは異なるオルガンの音色を楽しんでもらった。

約一時間半の見学が終わると玄関前で全員の記念撮影をし、元気よく次の訪問地・御木本幸吉生誕の地に向けて出発していった。

巻き尺で当時の天井の低さを実測

姉さんかぶりで熱演するカヨさん(左端)

長尾オルガンの音色にうっとり

《かどや っていいな》

生徒さんの感想の一部をご紹介

◎わたしが遠足で一番楽しみだったのは、かどやさんへ行くことでした。中に入るといろいろな物が置いてあって、テンションが上がってきました。一番興味があったのは、昔の人たちが使っていた道具です。理由は、知らないものがたくさんあったからです。八工を退治する道具や糸車などがあって、すごいなと思いました。他にもオルガンを触らせてもらったり、昔の人の薬を作る道具やいろいろな物があって、とても興味が持てました。

◎楽しかったのは、かどやでいろいろ学んだことです。二階では○×クイズをしました。わたしは2問しかあたりませんでした。くやしかったです。

◎かどやで、すごいものをいっぱい見たことです。例えば、長尾オルガンと女の人にクイズを出してもらってすごく楽しかったし、いろんなものを見せてもらい、説明もしてもらったので、「かどやっていいな」と思いました。

◎遠足でかどやに行きました。オルガンやいろんなものを見て楽しかったです。タブレットで昔の物を紹介する授業のために、カメラで写真を撮りました。いいものがありすぎて、選べませんでした。二階の部屋で○×クイズをしたのが楽しかったです。昔の道具を見て、思ったのが、今みたいに便利なものがないので、大変だなと思いました。また行きたいです。

◎かどやで昔の物を見ました。その中でも「すごい。」と思ったのは、八工とりです。

《教師魂に火が付いた!?》

二階でクイズを出してくれて楽しかったと評判の女の人とは、元教師のカヨさんだ。遠足の話を聞くやいなや「かどやの良さを知ってもらう絶好のチャンス！」と教師魂に火がついた。早速、四グループの館内での行動経路を作り、○×クイズも作成。当日は昔の雰囲気を出すため姉さんかぶりと作務衣姿で登場。ユウジさんとタッグを組み、○×クイズで生徒たちの心をつかんだ。

道具の説明をしたフミタカさんも説明はお手の物。昔の家屋の天井の低さを証明するため巻き尺を持参するなど、退屈させない演出が光っていた。

障がい超えて作品作り
鳥羽市初の合同展示会

四月の展示は、鳥羽市の障がい福祉事業所に通う人たちの作品展だった。

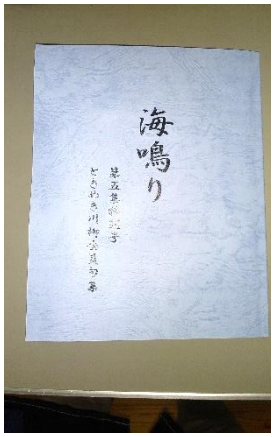
鳥羽市には障がいに応じて作られた施設が十七ヵ所ある。今回は、あしたば作業所、おおさか作業所、鳥羽たいむ作業所、コラボ、海の子作業所、ゆめぱーる、に通う方々の手芸や絵画、書道、写真、ペーパーフラワー、ペーパーバッグ等々の作品が展示された。

鳥羽市では、「トライ　バリアフリー　鳥羽」をスローガンに、障がいのある人もない人も互いに尊重し、支えあう共生のまちづくりを目指している。

今回の展示はそんな活動を、より多くの人に知ってもらおうと鳥羽市地域自立支援協議会が企画した。

ときめき川柳の会の歩みしるす
記念の第五集特別号完成！

「ときめき川柳の会」の会員句集第五集特別号「海鳴り」が完成した。



同会は、平成二十七年五月に発足。斎藤たみ子さんの指導のもと毎月第二水曜日の午後一時半から三時半に開催され、川柳作りに磨きをかけている。

句集は、平成二十九年に開講二周年を記念して初出版し、その後毎年、一年間に詠んだ句の中から各自がそれぞれ十句を選んで手作り句集を発行してきた。

第五集は特別号として、近詠（過去一年間の作品）に加えて、これまでの全作品から十句を自選して掲載。さらに「私たちが好きな句」と題し、講師の斎藤さんの作品集から選んだ句も掲載されている。

今回は、特集号のため印刷と製本はプロに依頼した。しかし、編集に関しては会員の中から実行委員が選ばれ、まるで学生時代の部活のように熱心に討議。弁当持参の企画会議も行ない、秀逸な作品集が完成した。

第五集「海鳴り」発刊に寄せて
斎藤たみ子

ときめき川柳の会の第五集特別号「海鳴り」が会員の皆さんの手によって素晴らしい句集になりましたこと、心から嬉しく思います。

ときめき川柳教室を始めて六年になりますが、皆さんの川柳に向けての熱意と上達ぶりに感嘆しています。

毎月皆さんの笑顔と感性豊かな作品に向き合いながら和気あいあいと過ごせるひと時が楽しくてなりません。日頃体調がすぐれなくても教室のある日は気分よくしゃんとなって、かどやさんまで出かけられる事が不思議でなりません。幸せです。人生の喜怒哀楽、人間の心と思いを詠む川柳が、呆け防止はもちろん、心身も若返ります。命の続く限り頑張って行こうと思います。

海鳴りや　遠い縁の　人を恋う
（「海鳴り」の句集にこめた思い）

＊　＊　＊　＊　＊

「講師の斎藤たみ子さんって誰」などと聞くことなかれ！斎藤さんは、よみうり東海文芸年間賞をはじめ様々な賞をたびたび受賞している川柳界のトップスターなのである！

またも苦渋の決断
「岡チヨコきものふく展」延期

五月の展示は、「岡チヨコきものふく～和服の反物を使って～」を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大等を考慮し、延期することになった。

ハウスブティック「ドンナベラ」(多気郡明和町)のオーナー兼デザイナーの岡さんは、着なくなった和服を斬新でおしゃれな洋服に仕立て直した作品を「きものふく」と名付けており、平成二十九年一月と翌三十年五月にかどやで作品展を実施し、好評を博した。

今回は、和風の雨コート生地や旬な長襦袢生地を使ったもの等、二十点を超える作品が展示される予定だった。

ところが、新型コロナウイルスの感染が急速に拡大し、四月二十日からは三重県にも緊急警戒宣言が発令されたため、岡さんと協議し、延期を決定した。

岡さんの展示は毎回、非常に大掛かりで、搬入日には作品だけでなく作品を立体的に見せるための多数のマネキン人形や鏡等が二トン車で運び込まれ、ゴージャスな生花も飾られる。そのように華やかな岡チヨコワールドを、感染の不安なく一人でも多くの人に楽しんでいただきたいと思い、ワクチン接種が広まる時期まで待とうという決断に至ったのである。

すでにDM(ダイレクトメール＝宣伝のために個人宛に送られる印刷物)は完成し、きものふくに合わせるTシャツ等も手配済だった。

そこで、岡さん厳選のTシャツの一部をかどやで販売することになった。スパンコール付きのきらびやかなもの等が並ぶ予定。

数量が限られているので、興味のある方は、お早めに。

平成30年の岡チヨコワールド
豪華な演出に見学者うっとり

◇◆◇ 貸部屋のご案内 ◇◆◇

かどやを有効にご活用いただくため、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などにご活用ください。

詳細は、かどやへ。
電話〇五九九-二五-八六八六

時間区分	午前	午後	全日	冷暖房設備
部屋	10時～12時	13時～16時	10時～16時	利用料
座敷南(10畳)	500円	600円	1,100円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	―――
仏　間(6畳)	300円	400円	700円	―――

・営利目的の場合は、料金表の１０割増しとなります。
・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の５割増しとなります。
・許可された利用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
・冷暖房費は、全日使用の場合は２倍になります。

かどや保存会　令和3年度会員募集開始！

かどや保存会は、歴史的文化財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を続けており、当会を支援してくださる会員を募集しています。

ピーク時の平成30年度は会員数351名でしたが、残念ながら以後毎年減少しております。しかし、コロナ禍にも関わらず、令和３年度は５月15日現在200名を超える方から継続のお申込みをいただきました。皆様からのご支援、心より感謝いたします。コロナの収束にはまだ時間がかかるものと思われますが、感染防止対策を強化しつつ、皆様の憩いの場所となるよう、これからも日々努力を重ねてまいります。手続きがまだの方も引き続きご支援いただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和３年度(令和３年４月１日～令和４年３月31日)の年会費（１口2,000円）は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入してください。

(1)手渡し：かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。
(2)銀行振込：郵便局　　普通　かどや保存会　００８５０－４－１５１７５１